

# 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100303		
法人名	有限会社 博永興産		
事業所名	グループホーム オアシスK		
所在地	香川県高松市飯田町705番地		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和2年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナの影響により関りが少なくなっているが、地域住民との関わりを大切に定期的に集会所にて地域の方を対象とした体操教室を行ったり、お茶やお菓子をご馳走になったりと、地域の方々との交流の場を目指しています。又、介護情報の拠点や災害時の避難所も地域からお願いされ地域に根付いた施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

「いつも あなたに 寄り添う」という理念を掲げ、利用者との関わりを大切にしている。家族アンケートには、「親身になってくれる」「家族のように接してくれる」等の記述があり、職員が常に理念を意識して実践していることがうかがえる。地域との交流も大切にしており、清掃活動に職員が参加したり、近くの集会所で行われている高齢者の活動に参加したりしている。また、災害時の地域の避難場所としても協力関係を築いており、当事業所が地域の一員として地域に認識されていることがわかる。言葉遣いには特に留意しており、スピーチロックについては専用の用紙に気づいたことを記入し、振り返りを行うなど、具体的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく場所に理念を掲示し意識づけを行い業務を行っている。	「いつも あなたに 寄り添う」という理念を掲げ、職員の目に付く場所に掲示し、意識づけを図っている。家族アンケートに、「親身になってくれる」「家族のように接してくれる」等の記述があり、職員が理念を意識して業務を行っていることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前に比べ、今年はコロナウィルスの影響で地域行事の参加や地域交流ができていないが、参加できる地域清掃等は参加できている。	地域の清掃活動に職員が参加したり、近くの集会所で行われている高齢者の活動に参加するなど、地域交流を行っている。地域の方に玉ねぎの苗をもらったり、行事で焼き芋を焼くときに火のおこし方を教えてもらうなど、日常的に交流している（現在はコロナ禍で積極的な交流は控えている）。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議等で行っていたが現在は交流や地域行事の参加が難しくあまり活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で、現在は主席されていた方々へ書類で取り組み内容や状況をお伝えをしている。	現在はコロナ禍で書面での開催となっているが、通常は、自治会長や民生委員、地区社会福祉協議会の会長などの地域関係者や、地域包括支援センター職員、家族代表などが参加して開催している。会議では、利用者の状態や研修内容について質問や助言を受けるなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を郵送で送らせて頂き協力関係が築けるように努めている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、事業所の実情を把握してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックの用紙も作成し活用している。	身体拘束委員会を開催している。委員会は毎回、事前に内容を決めて臨んでいる。スピーチロックには特に留意しており、専用の用紙を作成し、対応時に疑問に思ったことを記入し、振り返りや検証を行っている。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催した時には、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックの用紙を用いて委員会より報告をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ内容を共有し、スタッフ間で活用し支援が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や疑問点は、その場で説明を十分に行うようにし、理解と納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し面会や電話連絡の際にはご家族様の意見や要望を確認し、スタッフ間で話し合い介護計画の内容に反映させている。	家族の面会時や荷物を持ってきてもらったときなどを利用して、意見や要望を聞いている。また、年に1回、家族会を開催し、利用者と職員がともに食事をして交流を深めるなど、家族が意見等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり、業務を行うなかスタッフからの意見や質問、疑問の内容に耳を傾け、対応が出来るように努めている。	ユニット会議で意見交換をしたり、申し送りノートを活用して、意見や提案を出せるようにしている。また、職員から個別に意見を聞いたり、相談に乗るなど、職員の声に耳を傾けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見を聞き、必要時には研修や資格取得支援を行って向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修参加を促し、得られた技術や知識について、業務で活かせるようアドバイスを行っている。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し同業者と交流を持つ事でサービスの質の向上に役立てるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行った際にご本人の言動や仕草より汲み取る努力を行っている。又、ご家族より生活歴や趣向、要望をお聞きしご本人の安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な点や疑問点を聞き、十分に説明しご理解と納得をして頂き心のケアに努めている。又、起こりえるリスクについて事前に説明しご理解を頂いた上でサービス説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、他事業所等からの情報を元にニーズ確保に努め、サービス内容に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日食事や洗濯、掃除等を行う事い、生活を共に行うことで信頼関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にご本人の様子を細かくお伝えし、ご家族から気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りに努めている。又、家族会を開く事でより良い協力関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店を呼んだり、他事業所から顔見知りの面会機会を作ることで関係性が途切れないように努めている。	昔から通っていた理髪店に行ったり、ドライブで自宅近くまで行くなど、馴染みの人や場所とのつながりを大切にしている。現在はコロナ禍で積極的な交流は難しいが、親戚の人が来た時は短時間の面会を行ったり、ユニット間で行き来して利用者同士の交流を図るなどの工夫をしている。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係や生活リズムを把握し座席など変更し交流が図れるよう努めている。又、ユニット間の移動を自由にして頂き関係確保に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様からの相談も行って頂けるようにお伝えし対応できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを聞き取り、行きたい所や食べたいもの、暮らし方等の希望に添えるよう努めている。意思確認の困難なご利用者からは仕草や言動、会話から意向を把握するよう努めている。	本人の行きたい所や食べたい物などを聞き、希望を叶えるようにしている。昔からの生活習慣を把握し、尊重するようにしている。また、意思疎通が困難な方でも挨拶を徹底するなど、信頼関係の維持に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族や関係者からの情報収集により、これまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス等を通じて日々の様子を共有し把握するよう努めている。又、定期的に看護師や理学療法士など専門職業との連携により健康状態やADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者毎に担当者を設け主に担当者から日々の暮らしの様子を確認しながらモニタリングを行っている。又、ご本人やご家族の意向を確認、取り入れながらカンファレンスで話し合い、介護計画の作成に努めている。	担当制を敷いており、担当者のモニタリングや意見をもとに、他の職員にも意見を聞いて計画を作成している。計画の見直しの都度、本人及び家族にも意向を確認し、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況を記録し内容を共有。必要に応じて細かい様子を記録し対応や介護計画の見直しに活かしている。		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応出来る様、話し合いを行ったり、ご家族へ協力をお願いするなど、柔軟な支援が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者やボランティア等の協力を得たり、地域集会所や神社などの行事に参加させて頂き豊かな暮らしを送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、必要に応じて送迎や付き添い等の対応を行っている。又、協力医療機関による定期的な往診も可能であり、協力歯科による往診も行っている。	本人及び家族の希望を大切にしており、希望の医療機関の受診の際には情報提供を行ったり、必要に応じて職員が付き添うなどしている。また、週に1回、事業所のかかりつけ医の往診があり、緊急時にも連絡が取れるなど、適切な医療を受けられる体制を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や記録に基づき、申し送り等により情報交換を行っている。又、協力医療機関に日々報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応指針」により終末期における対応について説明を行いご理解を得ている。又、状態変化に応じてその都度、ご家族と話し合いを行いその内容を職員間で共有している。	入居時に指針を説明するとともに、状態の変化の都度、家族に報告しつつ家族の意向も確認するようにしている。看取りケアにも取り組んでおり、主治医と連携し、意識がなく意思疎通ができなくなっても、最後まで家族の存在が感じられるよう努めている。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や窒息、事故発生時などケース別にフローチャートを作成し緊急時に備えている。又、AEDの使用法や窒息時などの対応について研修や講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時と別に避難経路図を各ユニットに掲示している。又、毎年2回、避難訓練をいろいろな場面設定で実施している。運営推進会議では協力の働きかけと地域の災害対策について情報交換をしている。	年に2回、避難訓練を行っている。最近では屋外で消火栓を利用して消火訓練を行った。地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議で協力を呼びかけるなど、地域との協力関係の構築にも努めている。	事業所が2階にあることを鑑み、特に火災時の避難誘導については、引き続き訓練を行うとともに、地域との協力関係の維持に努められたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や経歴を把握し言葉使いに注意している。職員間で言葉かけに注意し合えるようスピーチロック用紙を活用しご利用者の尊厳が守れるよう心掛けている。	スピーチロックの用紙を活用したり、気になる言葉遣いがあればその場で話し合うなど、言葉遣いには特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提出時や衣類の更衣の際には、選択ができるように何種類かを準備し自己決定が行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間をご利用者の要望により変更したり、希望の場所で食事提供を行う等ご利用者が希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みやご家族の意向を確認しながら、状況に応じた服装や身だしなみを提案している。又、必要時には訪問理容や訪問美容の利用調整を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者からの食事に関する意見は給食会議で報告され速やかな改善が行われている。又、カレー作りやおやつ作りなど食事を作る楽しみを希望時に実施している。食事の準備や下膳も職員と一緒にされている。	調理は同法人内の1階にある厨房で行っており、配膳や下膳の際に利用者にも手伝ってもらっている。また、利用者の意見や残食、嗜好調査をもとに給食会議で話し合ったり、利用者が調理に参加できる機会を作るなど、食を楽しめるよう努めている。	利用者のかつての得意料理や郷土料理などを聞き、利用者とともに献立作成から調理、喫食の機会を作るなど、食事をより楽しむ工夫を期待したい。

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を工夫したり、好みの食べ物を用意する事で栄養や水分確保を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科治療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔状況に合わせ口腔ティッシュや口腔ブラシ、舌ブラシなどご利用者にあった道具を提供し義歯や口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中や夜間帯の排泄パターンを一人一人把握できるようにトイレチェック表を参考にして、トイレで排泄が行えるように声掛け、誘導を行っている。	トイレチェック表を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへの声かけ・誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況の確認と水分量にも注意し適度な運動が毎日行えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様をご自分で好きな時間に入浴できるように声掛けを行い、入浴が少し難しい方へは毎日声掛けを行うように努めている。	週に2回は入浴できるようにしつつ、曜日や時間を固定しないようにしている。夕方に入浴してもらったり、朝に入ってもらったり、その日の利用者の気持ちを尊重して、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状態を大切に考え、状況に合わせて安心して気持ちよく過ごすことができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し、スタッフ間で内服薬の内容を共有している。服薬状況を確認し経過観察を行い、ご利用者様の症状の変化の際にはすぐに報告が行えるように努めている。		



48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ことは継続して行って頂き、そのご利用者様の役割や楽しみを見つけ、生き甲斐を育てる環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響で、外出ができなかった。施設で感染予防に注意しできる範囲でのレクリエーションを企画し、外で普段出来ないことを行えるように取り組んでいる。	現在はコロナ禍で積極的な外出はできないが、事業所の周りを散歩したり、駐車場で花火をするなど外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に定期的に訪問販売があり、お小遣いから買い物を行っている。お小遣いについては出納帳を作成し、ご家族様へ毎月確認して頂く対応に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様に合わせ電話利用や携帯電話の操作の支援を行っている。年賀状等、必要に応じてご家族様とのやり取りが出来るように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションでご本人様が作成した作品を、ホールや廊下、居室内に飾り付けを行って生活感がもてるように努めている。	月替わりで季節の作品を飾るなど、季節感が出るようにしている。また、衛生管理にも努めており、家族アンケートにも「清潔感」がある、との記述が散見された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様がご自分で好きな場所で過ごして頂くことが出来るようにテーブルやソファの位置を変更し工夫している。		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人様が自宅で使用されていた家具や生活用品等を居室内に取り入れ、安心感が持てる場所になるように努めている。</p>	<p>居室には利用者の作品を飾ったり、家族の写真を飾るなど、落ち着いて過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ内や廊下等に手すりを設置し一人一人が安全でご本人様が出来る限り自立出来る部分が継続して行うことが出来るように努めている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく場所に理念を掲示し意識づけを行い業務を行っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前に比べ、今年はコロナウィルスの影響で地域行事の参加や地域交流ができていないが、参加できる地域清掃等は参加できている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議等で行っていたが現在は交流や地域行事の参加が難しくあまり活かされていない。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で、現在は主席されていた方々へ書類で取り組み内容や状況をお伝えをしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を郵送で送らせて頂き協力関係が築けるように努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックの用紙も作成し活用している。

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催した時には、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックの用紙を用いて委員会より報告をしています。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ内容を共有し、スタッフ間で活用し支援が出来るように努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や疑問点は、その場で説明を十分に行うようにし、理解と納得をして頂けるように努めている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し面会や電話連絡の際にはご家族様の意見や要望を確認し、スタッフ間で話し合い介護計画の内容に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり、業務を行うなかスタッフからの意見や質問、疑問の内容に耳を傾け、対応が出来るように努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見を聞き、必要時には研修や資格取得支援を行って向上心を持って働ける環境整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修参加を促し、得られた技術や知識について、業務で活かせるようアドバイスをを行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し同業者と交流を持つ事でサービスの質の向上に役立てるよう努めている。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談を行った際にご本人の言動や仕草より汲み取る努力を行っている。又、ご家族より生活歴や趣向、要望をお聞きしご本人の安心できる関係づくりに努めている。</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の不安な点や疑問点を聞き、十分に説明しご理解と納得をして頂き心のケアに努めている。又、起こりえるリスクについて事前に説明しご理解を頂いた上でサービス説明を行っている。</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人やご家族、他事業所等からの情報を元にニーズ確保に努め、サービス内容に反映できるよう努めている。</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎日食事や洗濯、掃除等を行う事い、生活を共に行うことで信頼関係を築くように努めている。</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡時にご本人の様子を細かくお伝えし、ご家族から気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りに努めている。又、家族会を開く事でより良い協力関係を築けるよう努めている。</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの理髪店を呼んだり、他事業所から顔見知りの面会機会を作ることで関係性が途切れないように努めている。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者同士の関係や生活リズムを把握し座席など変更し交流が図れるよう努めている。又、ユニット間の移動を自由にして頂き関係確保に努めている。</p>

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様からの相談も行って頂けるようにお伝えし対応できるように努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを聞き取り、行きたい所や食べたいもの、暮らし方等の希望に添えるよう努めている。意思確認の困難なご利用者からは仕草や言動、会話から意向を把握するよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族や関係者からの情報収集により、これまでの生活歴の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス等を通じて日々の様子を共有し把握するよう努めている。又、定期的に看護師や理学療法士など専門職業との連携により健康状態やADLの把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者毎に担当者を設け主に担当者から日々の暮らしの様子を確認しながらモニタリングを行っている。又、ご本人やご家族の意向を確認、取り入れながらカンファレンスで話し合い、介護計画の作成に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況を記録し内容を共有。必要に応じて細かい様子を記録し対応や介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応出来る様、話し合いを行ったり、ご家族へ協力をお願いするなど、柔軟な支援が行えるよう努めている。

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者やボランティア等の協力を得たり、地域集会所や神社などの行事に参加させて頂き豊かな暮らしを送れるよう努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、必要に応じて送迎や付き添い等の対応を行っている。又、協力医療機関による定期的な往診も可能であり、協力歯科による往診も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や記録に基づき、申し送り等により情報交換を行っている。又、協力医療機関に日々報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応指針」により終末期における対応について説明を行いご理解を得ている。又、状態変化に応じてその都度、ご家族と話し合いを行いその内容を職員間で共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や窒息、事故発生時などケース別にフローチャートを作成し緊急時に備えている。又、AEDの使用方法や窒息時などの対応について研修や講習に参加している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時と別に避難経路図を各ユニットに掲示している。又、毎年2回、避難訓練をいろいろな場面設定で実施している。運営推進会議では協力の働きかけと地域の災害対策について情報交換をしている。



IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの性格や経歴を把握し言葉使いに注意している。職員間で言葉かけに注意し合えるようスピーチロック用紙を活用しご利用者の尊厳が守れるよう心掛けている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>水分提出時や衣類の更衣の際には、選択ができるように何種類かを準備し自己決定が行えるように努めている。</p>
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間や入浴時間をご利用者の要望により変更したり、希望の場所で食事提供を行う等ご利用者が希望に添えるよう努めている。</p>
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご本人の好みやご家族の意向を確認しながら、状況に応じた服装や身だしなみを提案している。又、必要時には訪問理容や訪問美容の利用調整を行っている。</p>
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者からの食事に関する意見は給食会議で報告され速やかな改善が行われている。又、カレー作りやおやつ作りなど食事を作る楽しみを希望時に実施している。食事の準備や下膳も職員と一緒に行われている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事形態を工夫したり、好みの食べ物を用意する事で栄養や水分確保を促している。</p>
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>定期的に訪問歯科治療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔状況に合わせ口腔ティッシュや口腔ブラシ、舌ブラシなどご利用者にあつた道具を提供し義歯や口腔内の清潔保持に努めている。</p>

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中や夜間帯の排泄パターンを一人一人把握できるようにトイレチェック表を参考にし、トイレで排泄が行えるように声掛け、誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況の確認と水分量にも注意し適度な運動が毎日行えるように努めている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様をご自分で好きな時間に入浴できるように声掛けを行い、入浴が少し難しい方へは毎日声掛けを行うように努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状態を大切に考え、状況に合わせて安心して気持ちよく過ごすことができるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し、スタッフ間で内服薬の内容を共有している。服薬状況を確認し経過観察を行い、ご利用者様の症状の変化の際にはすぐに報告が行えるように努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ことは継続して行って頂き、そのご利用者様の役割や楽しみを見つけ、生き甲斐を持てる環境づくりに努めている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響で、外出ができなかった。施設で感染予防に注意しできる範囲でのレクリエーションを企画し、外で普段出来ないことを行えるように取り組んでいる。

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設に定期的に訪問販売があり、お小遣いから買い物を行っている。お小遣いについては出納帳を作成し、ご家族様へ毎月確認して頂く対応に努めている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様に合わせ電話利用や携帯電話の操作の支援を行っている。年賀状等、必要に応じてご家族様とのやり取りが出来るように支援を行っている。</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>レクリエーションでご本人様が作成した作品を、ホールや廊下、居室内に飾り付けを行って生活感がもてるように努めている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご本人様がご自分で好きな場所で過ごして頂くことが出来るようにテーブルやソファの位置を変更し工夫している。</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人様が自宅で使用されていた家具や生活用品等を居室内に取り入れ、安心感が持てる場所になるように努めている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ内や廊下等に手すりを設置し一人一人が安全でご本人様が出来る限り自立出来る部分が継続して行うことが出来るように努めている。</p>